

令和 7年9月12日

白老町議会
議長 小西秀延様

白老町議会議員 氏家裕治

派遣結果報告書

日時(期間)	自 令和 7年 8月 18日(月) 至 令和 7年 8月 20日(水)
目的地	滋賀県 全国市町村国際文化研修所(JIAM)
調査事項	地方議員のための政策法務 ～政策実現のための条例提案に向けて～
視察の成果 (具体的に)	別紙のとおり報告いたします。

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

○研修参加の目的

現在、白老町では平成19年から「協働のまちづくり」を進めるため自治基本条例を町の最高規範として定め18年がたちます。その中には議会・行政・町民の基本的な役割・取り組み指針が明記されています。

議会の活動は、運営基準・会議規則・会議条例とうで体系化された中で進められて来ましたが、近年、若い議員が増え、その中で議会は議会としての議会運営に関する理念・目的・活動を具現化するため議会基本条例制定に向けた動きがあることから、町民の方々、特に18歳以上の方々を読み込める解りやすい体系づくりの在り方について学ぶ事であった。

○地方議員のための政策法務

本研修は、総勢57名により4つの演習テーマで3日間10班（1班当たり5名～6名）で、政策実現のための条例提案に向けた議論を進めることとし、最終日にはその結果を発表・意見交換・講評をいただいた。

1－ 4つの演習テーマ

- ① 地域支えあい活動推進条例
- ② ハラスメントの防止に関する条例
- ③ こども育成・教育推進に関する条例
- ④ 議会基本条例

2－ スケジュール

1日目は、地方議員と政策法務についての講義・法制執務の基本・演習導入に向けての講義を受けた。

2日目は、前日の講義を頭の片隅に置きながら各班に分かれ、（私の班は、議会基本条例制定）この条例を制定する目的・必要性・有効性・効率性・理念の明確化等について議論を交わし、議会基本条例制定に向けての基本的事項についてまとめたが、その過程には持続可能な内容になっているか・制度疲労起こさないか等の課題も議論された。

3日目（最終日）は、前日議論しまとめられた演習結果を発表した。質疑の中には、我々が策定した条例の基本理念の一つに「市民の多様な声を尊重し、政策に的確に反映させることの的確に反映させること」とあることに対し、具体策を求められるなど、活発な意見交換会を通し充実した三日間だったと考える。

3-1 まとめ

こうした研修会を通して感じることは、様々な課題を持ち寄り集まった議員対話の中での「気づき」である。我々の今回の演習テーマは「議会基本条例制定」についてであったが、条例策定が目的ではなく「誰のために、何を目指し、どのような状態を作り上げるのか」を各自治体の状況に応じて明文化することが大事である。白老町は町民との協働のまちづくりを標榜するまちであり、町民とともに育むまちづくりを進める為、議会は何をすべきか、議員としての行動を条文の中での明文化が必要である。議会及び議員が自覚と責任をもって主権者教育に努め、町民が自治の主体として参画できる基盤を育むことを今後の議会基本条例制定議論が進む中で生かされればと考える。

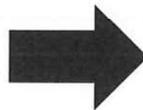


4-1 班の発表報告書（別紙2）

4 班

<p>条例名:JIAM 市議会基本条例</p> <p>① この条例の目的（何を狙っているのか、どのような状態を作り上げるのか、実現させたいのか） この条例は市民との対話を通じて多様な声を的確に政策へ反映し、変化する社会情勢に迅速かつ柔軟に対応することで市民が参画しやすい開かれた議会を実現する。JIAM 市議会は地方自治の最前線として、安心して幸せに暮らせるまちをめざし、首長と対等の立場に立つ責任と自覚をもって JIAM 市の発展を担うことを目的とする。</p> <p>② 必要性（立法事実、政策は必要か、他の手段で実現できないか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の暮らしに役立つ議会というメッセージ ・議員の役割や責任をはっきりと示す ・議会が市民に信頼されるためにも明文化

<p>③有効性（手段は目的の実現に対し効果的か）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話、参画、責任を制度化することで、条例があげる目的を効果的に実現する有効な手段となりえる。 ・首長と対等な立場を明確化することで、議会の自律性と責任を強化することができる。 ・変化する社会情勢に対して、迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えることができる。 ・市民の安心と幸福の実現という、最終目的に向けて、効果的に機能する条例である。 <p>④効率性（他の目的実現の手段と比べコストを抑えるなど効率的か）</p> <p>市民との対話を通じ多様な意見を政策に反映することで、後からの修正や無駄な試行を減らし行政資源を効率的に活用できる。変化する社会情勢に迅速かつ柔軟に対応できる仕組みや市民参画しやすい開かれた議会は、調整や再説明のコストを抑えることができる。首長と対等に自治を担うことで、自治体運営全体の効率化にも寄与し、高い効率性が期待できる。</p> <p>⑤その他の視点</p> <p>公平性</p> <p>持続可能な内容か？</p> <p>制度疲労起こさないか？</p>
--



分類	内容
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の多様な声を尊重し、政策に的確に反映させること ・議員自らが地方自治の最前線を学び続け、政策形成能力と議会機能の向上に努めること ・議会及び議員が自覚と責任をもって主権者教育に努め、市民が自治の主体として参画できる基盤を育むこと ・情報公開と説明責任を徹底し、透明性の高い議会運営を行うこと ・社会情勢の変化に柔軟かつ迅速に対応すること ・市民の生活の質を高め、市民福祉の増進に寄与すること ・首長と対等の立場で健全な緊張関係を維持しつつ、協働して地方自治を推進すること ・将来世代にわたる持続可能な地域社会の実現を目指すこと
具体策例	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を重視した市民との意見交換会、懇談会、報告会、また議会運営の効率化を図る年間計画を策定する ・市民フォーラム(有識者を交えて意見交換会を年一回は開催) ・議員の研修の充実と継続